令和６年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立茨田南小学校

令和７年３月

（様式１）

大阪市立茨田南小学校　　令和６年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標

現状と課題

・令和５年度の全国学力・学習状況調査（４月実施）では、平均正答率で国語科においては全国平均、大阪市平均を２ポイント程度下回り、算数科においても全国平均、大阪市平均をともに３ポイント程度下回る結果となった。１２月実施の大阪市学力経年調査では、６年においては、前年度を下回ったが、４年、５年においては、大阪市平均を上回る教科も見られ、総合点においては前年度を上回った。年間通じての取り組みが徐々に効果を上げてきていると思われる。年度目標に加わった理科学習・外国語（英語）学習への興味、関心の向上に関しては、目標値を達成することができた。今年度も、理科専科授業や英語の短時間学習、C-NET を活用しての効果的な学習形態を継続して取り入れ、すべての教科において基礎・基本の学力の向上を図ると共に、研究テーマである「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業研究に取り組んでいくことが必要である。

・タブレットなどＩＣＴ機器を活用した学習を継続して取り入れることにより児童はいろいろな場面で積極的にＩＣＴ機器を活用して学習をすることができるようになり、低学年の児童のタイピング技術の向上もみられた。今年度も継続して取り入れていきたい。

・授業規律を守る順法意識は向上してきている。個々の児童の自尊感情の向上については、継続した取り組みで徐々にではあるが向上してきている。学校安心ルールを定着させるとともに、思いやりの心や、ありがとうの気持ちを継続して育てていきたい。

・不登校児童については、増減を繰り返している状態で、改善にはいたっていない。

・令和５年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果、男女とも体力合計点で大阪市平均を下回ったが、数年来課題であった長座体前屈の記録の向上は見られた。今後も全学年で継続して体力向上の取り組みを進めていかなければならない。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

・令和７年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を９０％以上にする。

・令和７年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させ、全校で８名以下にする。

・防災教育を実施するとともに、令和７年度末の校内調査において、「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こったとき、どう行動したらよいかを知っていますか。」の項目に肯定的な回答をする児童の割合を９０％以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・令和７年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を３５％以上にする。

・令和７年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント向上させる。

・令和７年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８０％以上にする。

・令和７年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を５５％以上にする。

・令和７年度の小学校学力経年調査における正答率５割以下の児童を、いずれの学年も令和３年度より４ポイント減少させる。

・令和７年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における５年生の体力合計点を、男女とも令和３年度より５ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

・授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の６０％以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く]　　【基本的な方向６、教育ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）の推進】

・デジタル教材を活用した朝学習等を週２回以上実施する。

・令和 7 年度末までに、すべての教室（特別教室を含む）に大画面テレビ（大型ビジョン）を配備する。

・令和７年度までに、年次有給休暇を年間１０日以上取得する教職員の割合を１００％にする。

・令和７年度までに、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準１を満たす教員の割合を５０％以上にする。

２　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を８０％以上にする。　【基本的な方向１、安全・安心な教育の推進】

・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】

・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】

・防災教育を実施するとともに、令和６年度末の校内調査において、「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こったとき、どう行動したらよいかを知っていますか。」の項目に肯定的な回答をする児童の割合を８５％以上にする。
【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を３５％以上にする。
【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】

・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント向上させる。
【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】

・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７０％以上にする。
【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】

・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７０％以上にする。
【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】

・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度以上にする。
【基本的な方向５、健やかな体の育成】

・令和６年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント減少させる。
【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】

・令和６年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における５年生の体力合計点を、男女とも令和５年度より２ポイント向上させる。　【基本的な方向５、健やかな体の育成】

【学びを支える教育環境の充実】

・授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の６０％以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く]　【基本的な方向６、教育ＤＸ(ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)の推進】

・年次有給休暇を年間１０日以上取得する教職員の割合を９５％以上にする。
【基本的な方向７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準２を満たす教員の割合を８０％以上にする。
【基本的な方向７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

・各学年全員公開の研究授業をＩＣＴ機器を利用しながら行う。(計７回)
【基本的な方向６、教育ＤＸ(ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)の推進】

・全教員１回以上、公開授業を行う。
【基本的な方向６、教育ＤＸ(ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)の推進】

・デジタル教材を活用した朝学習等を週１回以上実施する。
【基本的な方向６、教育ＤＸ(ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)の推進】

３　本年度の自己評価結果の総括

【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】

教育活動における制限が無くなり、種々の行事や取り組みを、精選をはかりながらも年度初めよりコロナ前の形で実施することができた。いじめに関する取り組みも継続して行い、年間３回(各学期に１回)「いじめ(いのち)について考える日」を設定し、その認知・解消と自尊感情の向上に取り組んだ。

・経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに対する最も肯定的な回答は、R5：73.9%→R6：76.3%　で目標の 80%に届かなかった。ただ４つの学年のうち２つの学年では 80%を上回り(81.8%・84.8%)、昨年度より数値は向上している。

・年度末校内調査「地震や津波の時、どう行動したらよいか知っていますか」の問いに対する肯定的な回答
は 97%で、指標の 85%を大きく上回った。年間３回の避難訓練(火災、地震、防犯)の取り組みの成果が確実に表れている。

【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】

・経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の問いに対する最も肯定的な回答は
R4：27,3%→R5：34.7%→R6：35.3%で本年度の指標 35%を上回った。

・経年調査「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答：80.2%　目標達成

・経年調査「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答：74.8%　目標達成

・経年調査における国語および算数の平均正答率の標準化得点を経年的に比較すると、４年生：国語２P 増、算数１P 増　５年生：国語２P 減、算数１P 減　６年生：国語３P 減、算数１P 増　となり目標を達成できなかった。

・経年調査における「運動やｽﾎﾟｰﾂをすることは好きですか」の問いに対する最も肯定な回答は　R5：65.8％→R6：71.4％であり目標を上回った。校内調査においても R5：67％→R6：68％となり、昨年度を上回ることができた。

・経年調査における正答率が市平均の 70％に満たない児童の割合を R5→R6 で同一母集団で比較すると 4 年生で 6.8 ポイント、5 年生で 0.2 ポイント減少し目標を達成した。6 年生においては社会・算数・理科で目標を達成したが、国語と英語において増加がみられ、合計点では 5.8 ポイントの増加となった。

・５年生の体力合計点は男子は R5：47.91→R6：49.23　女子は R5：47.67→R6：48.48 男女とも向上したが目標の２ポイントには届かなかった。

【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】

各学年とも PC を使った学習が定着しており、朝学習やﾓｼﾞｭｰﾙﾀｲﾑでの PC 利用を行っている。

・「授業日において児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の６０％以上にする」の目標は達成できなかった。目標設定の数値を見直しが必要である。特に「心の天気」の活用を進めていかなければならない。

・年次有給休暇を年間１０日以上取得する教員（管理職を除く）の割合は２月時点で 94.6％であり、3 月末時で目標達成は確実と思われる。

・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準２を満たす教員の割合は２月時点で１００％であり、目標達成。

・各学年全員公開の研究授業を　ＩＣＴ機器を利用しながら年間 7 回行った。

・デジタル教材を活用した朝学習等を行ったが、学年によってバラツキも見られた。また教材の精選も必要と思われる。今後の課題である。

（様式２）

大阪市立茨田南小学校　令和６年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を８０％以上にする。　81.8%　【基本的な方向１、安全・安心な教育の推進】 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 25/500５％⇒20/498 約４％【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 3/15２０％　⇒8/18 約４４％【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】 ・防災教育を実施するとともに、令和６年度末の校内調査において、「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こったとき、どう行動したらよいかを知っていますか。」の項目に肯定的な回答をする児童の割合を８５％以上にする。 98%　【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１、安全・安心な教育の推進】 ・児童によい生活習慣を身に着けさせる。 指標 ・アンケート項目「チャイムの合図をきいて行動することができていますか」で肯定的な回答の児童の割合を９０％以上にする。　９８％ ・不登校児童(年間３０日以上の欠席)の人数を昨年度より減少させる。	B
取組内容②【基本的な方向２、豊かな心の育成】 ・子どもどうしの「よいところみつけ」に取り組む。 指標 ・「あいさつの大切さ」についての話し合いの機会を取り入れ、自尊感情を育てる。 ・アンケート項目「自分にはよいところがあると思いますか。」で肯定的な回答の児童の割合を７５％以上にする。　８８％ ・アンケート項目「あなたは困っている友達を助けることができますか。」で肯定的な回答の児童の割合を９０％以上にする。　９２％	A
取組内容③【基本的な方向２、豊かな心の育成】 ・縦割り班活動を充実させたり他学年との交流を図ったりして、違いを認め合い、学年を超えた仲間づくりや思いやりの心を育てる。 指標 ・「全校遠足」、「ハッピーフェスティバル」、「６年生ありがとう会」を実施する。その他、積極的に他学年との交流を図る。	A

取り組み内容④【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】 ・防災教育の授業を実施し､防災に対する意識付けに取り組む。 指標 ・避難訓練を年間３回､各学級で防災に関する学習を年１回以上実施する。 ・校内アンケート｢学校や家庭･地域などで地震や津波・火災が起こった時、どう行動したら良いかを知っていますか｡｣で肯定的な回答の児童の割合を８５％以上にする。　９８％	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

・チャイムを意識する児童が増えた。
・ひまわり教室でも５分前行動と掲示し、子どもどうし声をかけあっている。
・不登校児童には、保護者と連絡を取り合い、学校生活や課題に取り組ませてきた。
・席替えの前に班でいいところみつけに取り組んだ。各学級、各学年で工夫されていた。
・道徳、学活等でよいところカードをつくり、まとめてカード集にした。
・アンケートの前によいところみつけをしたことがとてもよかった。
・あいさつ週間などの取り組みにより、門でのあいさつは増えたように感じる。
・４・５・６年の合同玉入れなどはとてもよかったので、全学年に広げたい。
・行事以外にも積極的に異学年交流が行われていた。
・ひまわり学級の児童も、たてわり班活動に喜んで、また６年生児童は責任感を持って取り組んでいる。
・低学年は安心感をもって登校できたり、他学年とあたたかい関わりを持ったりすることができた。
・計画的に取り組めていて、子どもたちも見通しをもって行動できている。

次年度への改善点

・チャイムが聞こえてから、だらだらと教室に帰っている児童もおり、アンケートの結果と実態がちがう。
・昼休みからそうじへの切り替えができていない児童がちらほらいる。
・運動場から時刻を確認できない。
・不登校児童を減らすためにどのような取り組みをしていくのか学校全体で話し合いが必要。
・不登校児童については大きく改善されたとは言えないのではないか。
・どのように動くのが正解なのかを具体的に示す必要がある。
例「チャイムが鳴ったら運動場から駆け足で教室にもどる」など
・生活指導連絡会で、不登校児童に対し、どのように取り組んでいるのか共有してみてはどうか。
・いいところみつけをしても「自分にはよいところがない」という児童にはどのようなアプローチをすればいいのかわからない。
・教職員以外の大人へのあいさつができていない。
・ペア学年での取り組みがもっと増えればいい。
・わくわく班だけでなく、６年生が手本となって取り組む機会がもう少しあってもいい（特に１・６年）
・どう行動したらいいのか本当に知っているのか疑問に思うことがある。
・様々なパターンでの避難訓練を今後も実施していく。

（様式２）

大阪市立茨田南小学校　令和６年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を３５％以上にする。 【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント向上させる。 【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７０％以上にする。 【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７０％以上にする。 【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度以上にする。　【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・令和６年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント減少させる。 【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・令和６年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における５年生の体力合計点を、男女とも令和５年度より２ポイント向上させる。 【基本的な方向５、健やかな体の育成】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・体験的活動やＩＣＴを活用し、意欲を高める授業に取り組む。またオンライン授業を活用し、子どもたちの学びを保障する。 指標 ・全ての学級でタブレットを活用した学習に週１回以上取り組む。 ・アンケート項目「タブレットやデジタル教科書を使うと学習が楽しい」で肯定的な回答を８５％以上にする。**⇒90%**	B

取組内容②【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・「『主体的･対話的で深い学び』に導く授業展開の追求」をテーマとして研究授業に取り組む。 指標 ・各学年､全員公開の研究授業を行う。（計７回） ・全教員１回以上の公開授業を行う。 ・アンケート項目「あなたは友だちと話し合う学習は好きですか」で肯定的な回答を８０％以上となるように取り組む。**⇒87％**	A
取組内容③【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・児童の実態をより的確に把握し、単元教材に応じた効果的な授業に取り組む。 指標 ・アンケート項目「授業はよくわかりますか」で肯定的な回答を８０％以上となるように取り組む。**⇒90％** ・校内アンケートにおける「宿題をしていますか」の項目について､肯定的な回答をする児童の割合を９５％以上にする。**⇒96％** ・校内アンケートにおける「家庭学習（宿題以外の学習｡自主学習を含む）をしていますか」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を７０％以上にする。 **⇒72％**	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組①

・タブレットや NHK for School を活用することで児童の興味を引き出せ楽しく学習することができた。支援学級児童の進度に合わせた学習ができた。

・タブレットを活用した授業を計画し行ってきた。*しかし、タブレットの不調や故障により学級全体で一斉に指導できない事も多々あった。*

・ICT を活用し学習の復習や調べもの、プログラミング、話し合いを行った。発達段階に応じて取組内容を増やし、様々なツールが使えることを学習した。

・ロイロノートはやはり思考の整理にとても便利である。指導者側で資料などの準備をする必要はあるが、タブレット使用促進も変えて継続すべきである。

・冬休みの宿題をデジタルドリルで行ったが、進捗状況がリアルタイムで見ることができ、進んでいない児童には個別メッセージを送ることができるので有効な手立てだと思う。一方で持ち帰り用の充電器が十分ではないので全学年の一斉実施が難しい部分もある。

分科会より

タブレット端末の不具合については ICT 担当と連携し交換が必要な場合はすぐに対応していく。また長期間同じ端末を使っていくので不具合が発生することはやむを得ないが、児童の扱い方についても引き続き指導していく。

取組②

・予定通り研究授業や公開授業を実施することができた。

・国語の学習で班の話し合う活動を取り入れることで、友だちに話したり、質問したり、感想を言ったりすることがスムーズにできるようになった。

・計画通り７回の研究授業を行い一人一授業も行えている。

・話し合い活動では、どうしても発言できる児童だけで授業が進んでしまう事があったため誰かの発表を自分の言葉で説明できるか問いかけたり何を伝えたいのか発表者とは違う児童が解説したりする時間をつくった。また、わからない場合はわからないという指導を

続けてきた。まだ、全員ではないが少しずつ質問をする児童が増えたように感じる。
・研究授業では学年でテーマをもとに研究し、児童が意欲的に主体的に取り組めるよう考えた。学習についても学年で各教科、児童の実態に応じた取り組み方を考えて行ってきた。
取組③
・抽出児童でも一部の児童は自主学習に取り組めた。
・自主学が校内に掲示されると伝えてから、子どもたちの自主学へのやる気が UP した。
・児童の回答で「だいたいあてはまる」が多いので、最も肯定的な回答の数値を上げていく必要があるのではないだろうか。
・家庭学習の肯定的な回答もあがってきている。
分科会より
自主学習ウィークにとどまらず、各教室でカラーコピーしたノートを掲示して児童の意欲を上げていくことが大切だと考える。掲示することで他者の真似から学ぶことも重要である。また、苦手な学習内容やテスト前の勉強も家庭学習にすることで肯定的な回答の数値があがっていくのではないか。指導者の手立てとしては、コメントやまとめ方の評価やシールなどで意欲付けをし家庭学習の活性化を図っていく。

次年度への改善点

・家庭学習に取り組めない児童もいるので家庭の協力を得られるように働きかける。
・引き続き自主学ウィークがあれば良いなと思う。
・６年生から新１年生にタブレットが渡る際、しっかりと動作確認を行う必要がある。（Teams が開かなかったり USB をさす部分がまがっていたりしたため）
・学校全体（取組可能な学年から）でタイピングなどに取り組ませて記録をとるのはどうか。(集約しやすいものがあれば)
・自主学習週間や手引きなどを用い自主的に積極的に取り組む児童がふえてきた。今後も引き続き取り組む必要がある。
・ロイロノートの更新が決まったのでロイロノートで使用した資料などをどんどん学年フォルダに残していってほしい。
・一人一授業でも学年一人は参観しに行く、参観した先生型で討議会を行うことも必要だと思う。
・公開授業を実施する際の指導案を１週間前には配布してほしい。
・話し合い活動は基本となる話型をしっかりと提示しつつ発表の内容についてきちんと理解できているか聞く力をつけていく声かけも必要である。
・学力の向上と研究を連携・連帯させる必要性も議論できると思う。学力を教科学習だけでなく主体性あっての学びと考えるのであれば、家庭学習を充実させて（自由研究のように何でも好きなことをさせてあげる）学ぶこと、知ることは楽しいという感覚を養うことが大切だと思う。
分科会より
話し合い活動について→学びの定着をより確実なものにしていくために、児童の発表を聞いて他者がもう一度伝えるなどの工夫をすると話し合い活動の充実が図れるのではないかと考える。また、話し合う際も、話し合う目的を明確にして本筋を捉えて活動することも大切と考え、指導者は発問や指示を適切に行っていく必要がある。
学力向上について→学ぶこと、知ることは楽しいという感覚を養うことに自主学習は有効な手立てと考える。家庭学習の内容をどこまで広げるかは今後の課題と考える。仮に、長期休業中の自由研究のようにしてしまうと取り組みに要する時間など次なる課題も懸念される。次年度の研究テーマと絡めてしっかりと検討していく必要がある。

（様式２）

大阪市立茨田南小学校　令和６年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力（体力の向上）】 ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を３５％以上にする。 【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント向上させる。 【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７０％以上にする。 【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７０％以上にする。 【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度以上にする。　【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・令和６年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント減少させる。 【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・令和６年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における５年生の体力合計点を、男女とも令和５年度より２ポイント向上させる。 【基本的な方向５、健やかな体の育成】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容④【基本的な方向５、健やかな体の育成】 ・体力テストの校内平均値を向上させる。 指標 ・１，２学年では「握力」、３～６学年では「反復横跳び」「２０ｍシャトルラン」の校内平均値が上がるよう取り組む。	C

取組内容⑤【基本的な方向５、健やかな体の育成】 ・１年を通して全校で体力向上の取り組み(駆け足、縄跳び、ストレッチ体操)を実施する。 指標 ・校内アンケートにおける「運動することが好き」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を年度当初より向上させる。 ・体力向上の取り組みを年間１０日以上実施する。	B
取組内容⑥【基本的な方向５、健やかな体の育成】 ・児童の体力向上を図ると共に、食育の推進に取り組む。 指標 ・アンケート項目「朝ごはんを食べていますか」で肯定的な回答を９５％以上となるように取り組む。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

・かけ足、ストレッチ体操は実施されなかった。
　ストレッチ体操は具体的に何をしたらいいのかわからない。学校全体で取り組むのか。
・学年で体育のときにストレッチをしたり、なわとびカードを作ってやる気を高めたりすることで休み時間になわとびをする児童が増えた。
・運動することが好きな児童が 87%いるのに対して、休み時間運動場で遊んでいる児童は43%と大きく下回っていた。
・外に出るように促したり、一緒に遊ぼうと声掛けしたりしている。外遊びが苦手な児童に対しても、ひまわりのプレイルームで体を動かすようにしている。
・握力の平均値を上げることになっていたが、握力を高める運動をできていなかった。
・運動場が狭くなっているため、十分な運動が確保できなかった。
・体育でなわとびを取り組んでいる。早い時期に跳び方の指導をする必要があった。
・工事がある中でも工夫して体育、運動会、体力向上に取り組むことができた。
・体育の学習で主にストレッチを行い、未然のけがの防止、体の柔軟性の向上のために続けてきた。なわとびカードで自主的に運動を行う取り組みも行った。

・朝ご飯を飲み物も可としたことで、肯定的な回答が増えたと考える。
・水さえ飲んできていない児童も数人いる。
・学期に一度ある食育指導や早寝早起きあさごはん Week をすることで朝ご飯を食べることの大切さや、赤・黄・緑にはどんな食べ物があるかを知り、体づくりにつなげられた。
・朝食は食べてくる児童が多くなったが、お菓子のようなものが多かったのが気になった。
・子どもだけでなく保護者の働きかけが必要。
・毎日、給食カレンダーを読み、給食についても関心、楽しみをもち、栄養指導でさらに深め、給食の時間が楽しみだという児童が多くなった。
・好き嫌いを自分で知り、食べたことがないメニューにも挑戦しようと思えたのは、栄養指導や委員会の取り組みもあってのこと。
・朝食に関しては、各家庭によるが、何か一口でも口にして登校するよう声かけてきた。

次年度への改善点

・かけ足や持久走などの児童が苦手だと思ってしまう運動には、校内で学年別ランキング等を貼り出して、やる気を持たせればいい。
・休み時間、先生が積極的に外に出たり、声掛けをしたりする必要がある。

・運動場が使えなくなった後、どうするか。
・ひまわりでのみんな遊びなど、ひまわりでの運動に関する活動があったほうがいい。
・工事の関係で、運動場での活動が少なくなることが予想される。体育館の使用や校外での活動を考える必要がある。
・次年度の体力向上は、その時の状況に合わせて工夫していく。
・どの取り組みも、少ない時間の中ではあるが、引き続き継続していく必要がある。
・「運動することが好き」と思えるようにどのような手立てを打つのか具体的な指標が必要。
・体力向上の取り組みをするのは、学校側の目標であって、子どもたちの生涯スポーツに直接つながる事柄ではないと思う。「〇〇が楽しい」→運動が好き→運動をする→体力が向上という流れが自然なのだと思う。
・指標が分かりにくい。どこかで全体に伝えてもいいのでは。

〇分析

昨年度に引き続き、握力は大阪市の平均に届いておらず筋力の低下がみられるので、手立てが必要だと考える。更に、長座体前屈は昨年度、大阪市平均を上回っていたが、今年度は下回る結果となった。柔軟性も低下している。

20mシャトルラン（持久力）、50m走（瞬発力）も大阪市平均を下回っているが、本校の運動場の工事状況を鑑みれば日常的な対策は難しいと考える。特に来年度後半では、運動場が全面使えなくなるため、前半までの運動場の使用計画と後半の鶴見緑地などの活用も考えていかなければならない。

上体起こし（筋力）やソフトボール投げは普段の運動経験に起因するので一概には言えないが、改善がみられる。特に立ち幅跳びに関しては、男子女子ともに大阪市平均を上回っているので、瞬間的な筋力は十分についていると考える。

以上より本校の運動能力は、瞬間的に発揮する筋力（速筋）は鍛えられているが、持続的な筋力（遅筋）は不足していると考える。理由としては、運動場の広さや休み時間の制限が一つとしてあげられる。

・握力

	4年		5年		6年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
2023年度	13.1	13.4	14.9△	14.8△	16.6	16.7
2024年度	12.3	11.5	15.0△	15.2△	17.6	18.7

・反復横跳び

	4年		5年		6年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
2023年度	32.0	29.9	39.2〇	35.8△	40.9	39.7
2024年度	30.8	30.0	35.8△	33.1△	44.4	39.7

・20mシャトルラン

	4年		5年		6年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
2023年度	30.1	23.1	47.5〇	39.1〇	55.4	44.6
2024年度	39.2	36.0	41.5△	29.8△	53.6	44.6

（様式２）

大阪市立茨田南小学校　令和６年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の６０％以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く]　【基本的な方向６、教育ＤＸ(ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)の推進】 ・年次有給休暇を年間１０日以上取得する教職員の割合を９５％以上にする。 【基本的な方向７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準２を満たす教員の割合を８０％以上にする。 【基本的な方向７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・各学年全員公開の研究授業をＩＣＴ機器を利用しながら行う。（計７回） 【基本的な方向６、教育ＤＸ(ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)の推進】 ・デジタル教材を活用した朝学習等を週１回以上実施する。 【基本的な方向６、教育ＤＸ(ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)の推進】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向６、教育ＤＸ(ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)の推進】 ・朝の会、モジュールタイム等を活用してデジタル教材、協働学習支援ツールを活用した学習に取り組む。 指標 ・デジタル教材を活用した朝学習等を週１回以上実施する。	B
取組内容②【基本的な方向６、教育ＤＸ(ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)の推進】 ・ＩＣＴを活用し、意欲を高める授業に取り組む。またオンライン授業を活用し、子どもたちの学びを保障する。（再掲） 指標 ・全ての学級でタブレットを活用した学習に週１回以上取り組む。	B
取組内容③【基本的な方向７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・学校行事の取り組み時間を見直し、行事等の精選をはかる。また、ゆとりの日を週１回設定し実施する。 指標 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準２を満たす教員の割合を８０％以上にする。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容①～③

・ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教材(ナヴィマ等)を使用した朝学習を週１回以上行った。
・授業の中で(特に算数･社会)は ICT 機器を常に活用していた。
・毎日、朝と給食後、にﾀﾌﾞﾚｯﾄで「心の天気」を入れている。学習後や外に遊びに行けないと時間にナヴィマにも取り組み進んでﾀﾌﾞﾚｯﾄ学習に取り組めた。
・ICT の活用では、ﾃﾞｼﾞﾀﾙドリルを使用することで、はやくできた児童が持て余すことなく取り組めている。
・ﾓｼﾞｭｰﾙﾀｲﾑにﾃﾞｼﾞﾀﾙドリルを数回活用した。意欲はあるのでどんどん進める事ができる児童もいるが、端末自体が修理に出ていて、無い児童や不調で動きがにぶくﾃﾞｼﾞﾀﾙドリルに取りかかるまでに時間がかかり進める事が出来なかった児童もいた。
・ICT 活用の授業に関しても同様で一斉に学習を進めるには難しい状況が多かった。
・ICT を発達段階に応じて積極的に使用してきた。くり返し使用している機器が多く、かなりキズや不良なものが目立ち、そろえるまでに担当の先生に負担をかけた。６年間使い切り…というのは予算がかかるかもしれないが、６年分使用したﾀﾌﾞﾚｯﾄはかなり古いと思うので次年度から検討してほしい。
・ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教材を活用した朝学習に取り組むことができなかった。ナヴィマだとあまり子どもたちの意欲が湧かなくなってきている。
・ﾀﾌﾞﾚｯﾄの故障･不具合が増えてきている気がする。ハード面の整備が必要と思う。
・朝学習ではﾃﾞｼﾞﾀﾙ教材をあまり活用できなかった。
・研究授業では ICT を利用した。
・勤務時間に関しては短いほうだと思うので継続していきたい。
・行事や授業時間数を減らしたおかげで負担が減っていると思う。
・行事は少しずつ精選されてはきたが、時数のこともふまえ研究授業の日はそのクラス以外は下校し次年度から職員も研究に専念できるようなゆとりが欲しい。
　ゆとり＝早く帰る　こともそうだが、ゆとりをもって職務に専念できる時間がほしい
　（５ｈ授業の日を忙しい月に多く設定するなど）
・学校行事(運動会、遠足等)を教科に含め、余剰時間を増やすことはできないだろうか

学校の年度目標に対して

・授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の６０％以上にする。･････達成できなかった。→C
・各学年全員公開の授業を計７回１月時点で行った。
・２月時点でほぼ全教員が公開授業を行った。
・１月末時点で年間 10 日以上の年休取得率は 92.3％である。3 月末時点では 98％になる見込みである。

茨田南小学校教員の時間外勤務時間上限基準の達成率（１月時点）

項目	今年度	昨年度
基準１	54.29%	59.46%
基準２	100.00%	100.00%

次年度への改善点
取り組み内容①～③ ・ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教材の使用をもっと幅広くする。 ・ICT を使った授業例を教員に周知する。 ・ゆとりの日を増やす。 ・曜日を決めて朝学習でﾃﾞｼﾞﾀﾙ教材を使うようにする。 ・「研究授業を ICT 機器を使用して行う」は変更すべきだと思う。来年度は研究発表もあるので、もう一度議論すべき。 ・ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教材での学習の効果的な使い方を考える必要がある。(ナヴィマは使い勝手が悪い) ・すでに取り組んでいるが、年間授業時数の計画的な削減を進めていく。

※「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準２

基準２　ア　１年間の時間外勤務時間が 720 時間を超えないようにすること
イ　１か月の時間外勤務時間が 45 時間を超える月を１年間に６月までとすること
ウ　１か月の時間外勤務時間が 100 時間を超えないようにすること
エ　連続する複数月(2 か月、3 か月、4 か月、5 か月、6 か月)のそれぞれの期間について時間外勤務の１か月当たりの平均が 80 時間を超えないようにすること

※基準１‥時間外勤務時間→1 か月 45 時間以内、1 年間 360 時間以内